

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第 28 号
2015年2月発行



新療護園完成！！

もくじ CONTENTS

夢は国境を越えて
～働く仲間たち～ . . . 2

「いのちの輝きに寄り添う
エンパワメント科学」出版
. . . 3

施設トピックス【特別編】
新療護園完成報告
. . . 4



イノベーション委員会発足
. . . 5

第十一次実務研究発表会
開催について . . . 5

芳香会活動報告 . . . 6

芳香会スケジュール . . . 6

編集後記 . . . 6

2011年3月11日に発生した東日本大震災において被災された皆様に、改めて心よりお見舞い申し上げますとともに、当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

夢は国境を越えて ～働く仲間たち～

芳香会では平成二十二年度からEPA制度を利用して、介護福祉士候補生の受入れを行って参りました。【平成二十二年度は特別養護老人ホーム、平成二十四年度は療養園、今年度はケア・アシスタンスに、いずれもフリーピン人】慣れない日本で仕事と勉強の両立に苦労しながら、日々頑張っている候補生をご紹介します。

【ジェイミー…青嵐荘特別養護老人ホーム】

私は平成二十二年十一月十一日から芳香会で働き始めました。言葉や生活、介護をすることなど沢山の不安がありましたが、一生懸命頑張りました。第二十六回介護福祉士国家試験に合格することが出来ました。とても嬉しかったです。今では夜勤の業務もしています。生活でも車の免許を取りました。アパートも施設が用意してくれた所から、今では新しい所を自分で探して、自分で契約をして引っ越しをしました。これからも日本で頑張ります。

【ミレット…青嵐荘療養園】

国家試験まであと一年です。仕事を始めて二年経つので早いと思います。国家試験が近くなるとストレスと緊張などいろいろ考えます。今はまだ緊張しませんが。日本語と介護の専門的なことを勉強しています。言葉と専門的な事を学ぶことは本当に難しいと思います。国家試験に向けて強い意気込みで臨まなければなりません。



ばなりません。身体だけじゃなく心も準備しようと思います。将来のために合格を目指します。仕事と勉強が本当に大変ですが、最後まで頑張ります。

【ミアミ…青嵐荘療養園】

国家試験に合格するように色々な方法で学習する。残り一年間はできるだけ毎日三十分〜二時間は自ら勉強する。ストレスにならない様に身体が疲れている時は無理に勉強しない方がよい。なぜなら覚えられないまま時間だけが過ぎて無駄になる。休日に国家試験問題を解いてみて解答は先生か先輩に確認して頂く。全ての勉強会に参加する。毎日勉強を頑張っていきたいと思う。今年では学べることや勉強すべきことを熱心に努力する。先生から教えてもらうことは必ず理解して、来年の国家試験まで頑張る。

【ジョアン…青嵐荘ケア・アシスタンス】

私はジョアンと申します。マニラでジェイミーさんから芳香会の説明を聴いて、シャープペンシルも頂いて、今も使っています。芳香会の方がフリーピンまで来ることは大変だと思いましたが、とても役に立ちました。また芳香会の近くには姉が住んでいて、海外生活は大変だと思えますが近くに家族がいると安心だと思いい、芳香会に来ました。日本語は難しいですが、利用者さんを良くお世話して、試験を合格するよう頑張ります。

【リヤ…青嵐荘ケア・アシスタンス】

私はEPA候補者のリヤです。日本語を一年位勉強しております。日本語だけでなく文化も学んでいます。これから青嵐荘ケア・アシスタンス



タンスで働くとともに、介護の勉強を続けていきます。最近では現場で仕事をして、ご利用者とコミュニケーションをとって初めて大変さが分かりました。その大変さのなかに、もっと頑張りたい気持ちがあるのであきらめずに仕事に慣れるまで頑張ります。

ベトナムに行ってきました！

～EPA現地説明会への参加～

「シンチャオ」ベトナム語でこんにちはを意味します。平成二十六年十二月七日〜十二日に現地で日本語学習をしているEPA介護福祉士候補生に会いにベトナムのハノイへ行ってきました。現地で直接候補生に芳香会の説明を行うことで日本に来る際の不安軽減と、希望する就労先に芳香会を選んでもらうことが目的です。現地説明会には理事長、常務理事をはじめ五名の職員で参加し、百十一名の候補生と話をすることが出来ました。通訳もいましたが、候補生は私たちの話す日本語を真剣に聞き、一所懸命日本語で質問をしてきました。そのような候補生を見てみると、人と話をするのに大切な「伝える」「聞く」「汲み取る」を改めて学ばせて頂きました。未知の世界に飛び出そうとする候補生は、好奇心に満ち溢れ、生き生きとした眼差しをしているのが印象的でした。また、滞在場所のハノイは高層ビルが立ち並び、綺麗な街並みです。フォーや春巻きが有名で、野菜を使用した料理が多く親しみやすい味です。共に働く仲間として、私



達も沢山の事を学んでいきたいと思います。
青嵐荘特別養護老人ホーム庶務係長 富張 浩俊

「いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学」出版

芳香会では来年度法人設立四十五周年を迎えます。そこで、これまでの実践活動を科学的根拠に基づいて整理する必要性があると感じ、この度、鹿児島国際大学大学院 高山忠雄名誉教授、つくば大学大学院 安梅勅江教授にご指導賜り、北大路書房から書籍を出版させて頂くこととなりました。



だれもが主人公、新しい共生のかたちを

芳香会から発信しよう

人びとが、たとえどのような状況にあったとしても、幸福が未永く継続する状態（ウエルビーイング）を実現するには、どんな仕組みが必要なのだろうか？

人はこの世に生を受けた瞬間から、自分の存在の意味を確認しながら生きています。生まれたばかりの赤ちゃんでさえ、泣くことで自己主張し、周囲の大人の中で自分の存在を確認している。人生には様々な山や谷がある。災害や障がいなど、逆らえない自然の力に押し流されることもある。それらと折り合いをつけながら、常に意識はしなくても、自分の生きざまに何らかの意味を見出すことが、生きる力の源泉だ。

本書は、エンパワメントのプロ集団である社会福祉法人が、いのちの輝きに寄り添う支援の理論と実践を紡いだ本邦初の成果である。エンパワメント（湧活）とは、人びとに夢や希望を与え、勇気づけ、人が本来持っているすばらしい、生きる力を湧き出させることである。

本書により、芳香会の役割は大きく変わった。利用者に加えて、世界中すべての人のウエルビーイング実現に資するモデルの発信が芳香会のミッションだ。人びとの心の拠りどころとなるスーパードラッグ、芳香会の今後の展開を大いに期待したい。

つくば大学大学院教授
芳香会社会福祉研究所 部長 安梅 勅江



「いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学」出版に寄せて

高山忠雄先生監修、安梅勅江先生、芳香会社会福祉研究所編にて、昨年十一月に表題の図書を出版いたしました。

両先生は「科学的根拠（視点）に基づく現場実践」を強く説かれ、現場の職員こそ研究的視点、科学的視点を持つべきであると折に触れご指導を頂いておりました。

その成果の一つが今回の図書出版であり、約四十名の職員が執筆に加わったことも素晴らしいことだと思っています。研究所の所長として、また現場に身を置く者の一人としても喜びが湧いてきます。

この図書は二部構成になっており、一部は安梅先生にエンパワメント理論と技術についてご執筆頂き、第二部では職員分担により実践現場でのエンパワメント理論と技術の適用事例・成果を書かせて頂きました。

ややもすると「勘・コツ・経験」だと言われることもある現場での実践を「科学化」していくための視点、ヒントが沢山詰まっていると自負しています。

副題に「だれもが主人公 新しい共生のかたち

ち」とあるように、エンパワメント科学はこの世に生きるすべての人々のウエルビーイングに資すると確信しています。

また、巻末部分に「芳香会のあゆみ」を載せさせて頂きました。これは年表の様なものではなく、社会福祉法人のリーダーが何を考え何に悩んでいるかを率直に書いたものです。おまけのような部分ですが、お読み頂ければ、共感して頂けることも多いのではないかと思います。

是非図書を手にお取り頂き、御高覧頂ければ幸いです。

社会福祉法人芳香会 常務理事

芳香会社会福祉研究所 所長 宇留野 功一

「なまの声」を研究に活かして

担当稿では、地域のみなさまと保健福祉専門職の「なまの声」からニーズと展開のあり方を把握し、地域でもとに生きるパートナーシップの実現に必要な条件を検討しました。

執筆にあたり、実践の場で活躍する保健福祉専門職として培われたニーズの把握や支援のあり方について、科学的根拠をもって示すことを心がけました。本文では「なまの声」を活かすための具体的な研究の流れについてまとめ、得られた情報を理論に基づき整理し、ニーズと展開可能性について把握できたものを成果として記載しました。この成果とすでに明らかにしている報告を基に、保健福祉専門職と地域の皆さまとのパートナーシップ構築に求められる条件と、今後の展開可能性について論じました。

専門職の実践知を科学知とすることで、根拠に基づく実践への活用が可能となり、よりよいサービスの提供と環境の改善に寄与するものと考えております。

芳香会社会福祉研究所 主任研究員 徳竹健太郎

施設トピックス【特別編】

新療護園完成報告



去る平成二十六年十二月十四日、青嵐荘療護園竣工記念式典を行いました。青嵐荘療護園は、昭和五十五年四月に県内二番目の身体障害者療護施設として設立されました。以後三十四年が経過し、

経年による老朽化が顕著となっております。そんな折、茨城県保健福祉部障害福祉課より耐震化整備事業のお話をいただきました。

平成二十四年十二月に新たな土地を購入し、約半年間の造成工事を経て、平成二十六年二月に建物の建築工事が始まりました。約九ヶ月間の工事が完了し、無事に竣工記念式典を迎えることができました。

竣工式には、行政関係者や障害者団体の会員施設などを含め、計八十三名の方にご参加いただきました。会場は、地域交流室及び作業室で行いました。こちらの部屋は、東面と南面の半分がガラス張りとなっており、晴れた日はとても明るい場所で、竣工式当日も冬晴れの中、厳



粛に竣工式が執り行われました。式典終了後、建物内の施設見学会を行いました。三グループに分かれて、担当職員が各部屋をご案内し、使用用途や部屋の特徴について補足説明を行いました。新施設では、食堂及び地域交流室・作業室に床暖房を完備しました。また、天井が高

い部分にはサーキュレーターを設置し、天井付近の暖かい空気を下に押し下げることによって、効率的に部屋を暖めることができるようになっていきます。また、スノーブレン室にはサイドグロウ（光ファイバーライト）やバブルタワー、回転式プロジェクターを整備しました。日中活動の一環としてより充実したスノーブレン活動を実施していきます。居室は全て南向きで明るく、一人あたり約八畳の広さがあり、ゆったりと過ごすことができます。旧療護園と比較すると約二倍の面積となりました。

耐震面では、建物の床を構造床（鉄筋コンクリート造り）としました。また、造成工事を行った際には地盤改良工事も実施しています。施設見学時には、館内の一室でコミュニケーションボードを使った。見学者の中には、「こんなロボットを使っているんですね！」と興味深く口をふれあう方もいらっしゃいました。



施設見学後、食堂・地域交流室・作業室を使用して祝賀会を行いました。約三百平米のホールは採光に優れた明るいスペースとなっており、天井も五メートルと開放的な空間です。

祝賀会では、ビュッフェ形式で軽食を提供しました。施設見学の感想やこれからの期待など、多くの方に御祝いと激励のお言葉をいただきました。また、土地を提供していただいた地主様より「良い施設ができてよかったですね」とのお言葉をいただきました。約一時間の祝賀会が終了し、無事に竣工記念式典を終えることができました。

平成二十四年七月から約二年半で、新しい施設が完成し事業を開始することができました。後から振り返ると、あっといふ間の二年半だったように感じます。この建物に負けないよう、ご利用者はもちろん、地域の皆様にも愛される事業所を目指し、日々努力して参ります。最後になりますが、ここに至るまでには、多くの方々のご支援とご協力をいただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

青嵐荘療護園 副主任事務員 土堂 哲弘

新療護園が出来るまで



H26.12月13日
新療護園完成



H26.6月末
鉄骨工事完了



H25.11月末
造成工事完了



H26.9月上旬
外壁工事完了



H26.5月末
基礎工事完了



イノベーション委員会発足

これからの介護分野に不可欠と思える福祉機器の利用や介護環境改善に向けて学習し、導入準備や評価等を行い、各事業所への支援を行う為に、腰痛予防からの視点も重視し、継続的に実施して行くことを目標とした委員会が新たに発足されました。

今回、委員会を代表してお二人の理学療法士にインタビューさせて頂きました。

【青嵐荘つくし園

理学療法士 吉田 真純】

介護作業には腰痛などのリスクとなる作業が多くあり、介護者が被介護者を抱きかかえて作業すると、腰痛の発生リスクが高いとされています。しかし、介護現場では移乗に関するリスク意識が低く、移乗介助機器（以下、リフト）の普及率が低いことや、リフトを導入しても、作業時間がかかる等から、いつの間にか使用しなくなつた施設があります。イノベーション委



員会では『活用すれば変わる』を念頭に置き、①腰痛予防などの介護職の負担軽減②安心・安全な移乗介助の実施を目的に、リフトを使用した移乗方法を取り入れ、利用者・他職種と連携し、定着化できることを目標とします。来年の三月を目途に、

ケア・アシスタンスでのリフト導入と、つくし園でのリフト定着化を目標に進めて行きます。

【青嵐荘特別養護老人ホーム

理学療法士 村上 守】

さまざまな仕事のロボット化が進む中、人から出来る仕事、人のぬくもりが必要な仕事は少なくありません。そのような仕事は、人々の生きがいとなり、日々の生活の糧となります。が、年齢とともに衰える体力で、離職せざるを得ない人が増えています。



昨年十月発行の本会報にて、すでに周知されておりますが、「人が行う作業において疲労、労力を軽減すること」を目的として開発された、スマートスーツ

の試験導入が、本年二月より、イノベーション委員会が中心となり、青嵐荘療育園、青嵐荘特別養護老人ホームの両施設で始まります。今後はスマートスーツ着用時の負担軽減等の調査、ならびにその定着化を図ってまいりますので、皆様、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

第十二回実務研究発表会開催について

芳香会第十一回実務研究発表会が、十二月二十六日、古河市の平成館で開催されました。

本年は入所支援分野から二発表、在宅支援分野から二発表、経過的実践特別発表から一発表の合計五発表が行われました。



「実務」において、成果を科学的に様々な方法で立証する、その方法や思考過程を日々の業務にも生かせるように、またきちんと根拠のある仕事作りができるようにとの宇留野理事長の強い思いからスタートし、十一

回目を迎えました。

審査員には、鹿児島国際大学大学院の高山教授、筑波大学大学院の安梅教授にご多忙の中をお越しいただき、一つ一つの発表についての具体的な評価とともに、私たちの業務へのフィードバックの考え方や今後の実務と研究との結節点などをご教示いただきました。

日頃は「実務」が中心となり「研究」とは意識的にも現実的にも程遠い関係となつてしましますが、本日のような機会を設けることで、私たちの日々の業務にしっかりとした根拠と科学性をもち、信頼され納得いただけるサービスタにつながることをこれからも目指してこの発表会を続けていきたいと思っております。

最優秀賞は青嵐荘ケア・アシスタンス、優秀賞は介護保険支援センター青嵐荘（結城）の発表でした。受賞おめでとうございました。「芳香会実務研究がノーベル賞を受賞」そんな夢のような大きな期待と野望を持ち、日頃の実務と研究を積み重ねて参ります。

芳香会病院青嵐荘療育園

副施設長 窪 誠勇



芳香会活動報告



芳香会マラソン部です！



三年前から古河市主催で「古河はなももマラソン」が始まりました。

私自身も興味を持っていたことの一つでもあり、この大会に是非芳香会で参加してみようと思いい協力者を募りました。



参加しました。今年（三月十五日開催）は更に増え、ボランティア五名、ランナー二十名です。今回はご利用者もランナーとして参加されるので、職員と共に楽しみながら走りしたいと思います。沿道での応援も励みになりますので、芳香会マラソン部の姿を見つけた際にはご声援をよろしくお願いいたします。

たま保育園 主任保育士 宇留野 礼

みのりホーム懇親会を開催して



平成二十六年十月四日、芳香会地域交流ホームにて、第一回目となる「みのりホーム懇親会」を開催しました。入居者、家族、職員の総勢五十二名で親睦を深めました。

当ホームは、平成十五年四月に「ふきのとう」を開設し、十一年が経過しました。この間に「芳香のいえ」、「輝希のいえ」、「栄花」と順次開設し、現在では四つのホームに二十五



名の入居者が生活を送っています。それぞれ入居者の生活スタイルは異なり、なかなか一同に会することができませんでした。そこで、共に地域で生活する仲間を知り、親睦を深めたいという思いから、懇親会を開催しました。内容は、各ホームの紹介・昼食会・外部アトラクションの三部構成でした。各ホームの紹介では、入居者が主となり自己紹介を始め、日中活動やホームでの生活の様子を紹介しました。昼食会では秋の味覚を楽しみ、外部アトラクションは地元古河市のパールンパフォーマーを招き、皆で楽しいひとときを過ごすことができました。最後に入居者や職員、バックアップ施設の諸とう舎等、多くの方々の協力があり、無事第一回目の懇親会を開催できたことに感謝致します。

みのりホーム 管理者 木立 雅人

芳香会スケジュール

二月	二十日	被災地支援活動報告会
二月	二十四日	福利厚生お楽しみクイズ
二月	二十六日	苦情受付体制委員会
三月	四日	法人内ヒアリング
三月	十四日	理事・評議員会
三月	十八日	第三者委員会
三月	二十三日	新任職員&
三月	二十四日	随時職員合同研修会
三月	二十四日	高校生インターシップ

（四月七日迄）

編集後記

最近、TVCMや番組で北陸新幹線開通にもなう案内が数多く見られる。ある番組では、三十年前の上越新幹線が地元は何をもたらしただのか現在の検証が行われていた。自然環境が厳しく、人口減少率の高いこれらの地域にもたらしたものは、地方再生を考える機会をいただいた。（光）

外国人の目線で日本を見る番組で、改めて日本の素晴らしさを知り、日本に誇りを感じる機会が増えました。日本の良さを次代に引き継ぐべく、まずは和食作りの勉強から始めます。（加）

寒い日々が続く風邪やインフルエンザが流行しています。今年は例年より早い流行の到来で私も年明け早々に風邪で倒れてしまいました。皆さん、うがい、手洗い、マスクを心がけましょう（織）



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp